

スーパーマーケット景気動向調査

2020年9月調査結果（8月実績）
（2020年9月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに悪化

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から-5.3の43.1、見通し判断は前月から-2.2の37.3となり、現状判断は大幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に二桁のプラスを維持した。買物頻度の自粛や高温により来客数DIは低下した一方で、堅調な家庭内食品需要による買い上げ点数の増加や青果相場の高騰を追い風に客単価DI、特売の自粛により販売価格DIや収益DIが高水準を維持している。

カテゴリー動向調査では、前月と傾向に大きな変化はみられなかった。中食需要の減少に加え、行事自粛や帰省客の減少の影響を受けた惣菜カテゴリーDIはマイナスとなった。他のカテゴリーDIは、高い気温により、夏物商材が好調となった。また、マスクや衛生用品、家庭用品が好調な非食品DIも引き続き高水準を維持した。（カテゴリー動向については14ページに詳細を掲載）

景況感調査は、景気判断や消費者購買DIが悪化し、感染拡大前の2月水準まで低下した。店舗周辺地域景気判断については前月水準で推移した。（長期傾向についてはp12参照）

外食や外出の自粛傾向が続き、好調な販売動向が続いている一方で、行楽や帰省客の減少による影響を受けた動向となった。足元では第2波の懸念は小康状態となりつつあり、堅調だった家庭内消費需要にどのような変化がみられるか、今後の推移が注目される。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：43.1 (-5.3) 前月：48.4	消費者購買意欲DI 当月：47.5 (-3.9) 前月：51.4	周辺地域 競合状況DI 当月：44.7 (-1.2) 前月：45.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：42.3 (-0.2) 前月：42.5
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：37.3 (-2.2) 前月：39.5	消費者購買意欲DI 当月：42.0 (-1.8) 前月：43.8	周辺地域 競合状況DI 当月：43.1 (-0.1) 前月：43.2	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：38.3 (-0.6) 前月：38.9
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：13.6 (-2.7) 前月：16.3	客単価DI 当月：25.5 (-0.5) 前月：26.0	来客数DI 当月：-16.0 (-1.9) 前月：-14.1	
収益DI 当月：13.9 (-4.3) 前月：18.2	販売価格DI 当月：9.7 (-2.2) 前月：11.9	生鮮品仕入原価DI 当月：18.9 (+1.1) 前月：17.8	食品仕入原価DI 当月：4.8 (+0.9) 前月：3.9

カテゴリー動向

青果DI 当月：30.2 (+2.0) 前月：28.2	水産DI 当月：11.4 (-13.2) 前月：24.6	畜産DI 当月：20.3 (-3.8) 前月：24.1	
惣菜DI 当月：-10.0 (-6.2) 前月：-3.8	日配DI 当月：17.2 (+4.0) 前月：13.2	一般食品DI 当月：7.9 (-3.0) 前月：10.9	非食品DI 当月：14.3 (-4.6) 前月：18.9

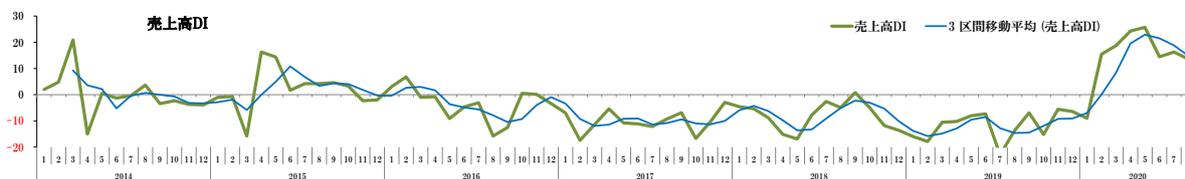
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から小幅に下落も二桁プラス圏を維持

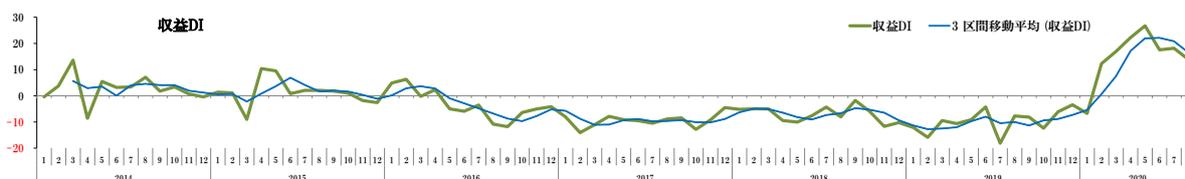
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	6.6	7.7	18.2	48.6	18.8	16.3
売上高 (当月)	7.0	10.8	20.3	44.9	17.1	13.6



2. 収益DI

前月から小幅に下落も二桁プラス圏を維持

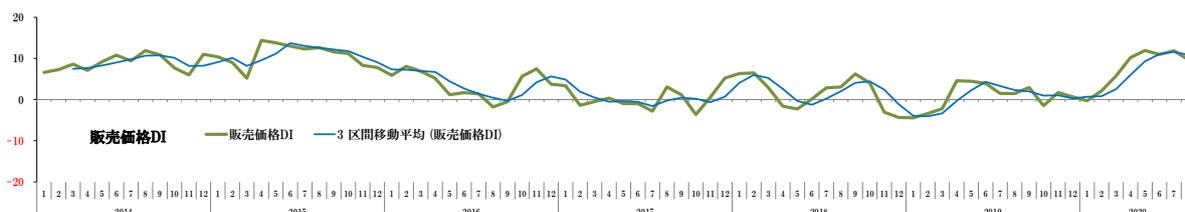
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	3.4	10.6	18.4	45.3	22.3	18.2
収益 (当月)	4.5	15.5	19.4	41.3	19.4	13.9



3. 販売価格DI

前月から小幅に下落も大幅なプラス水準を維持

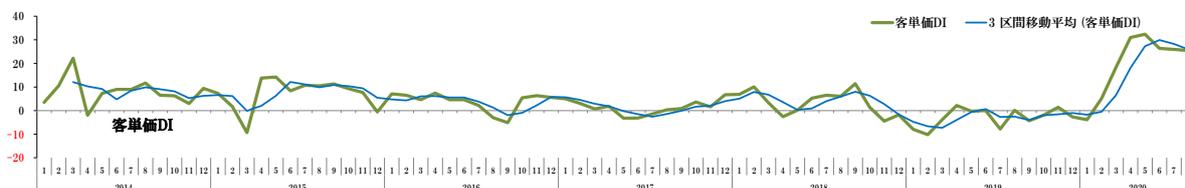
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	2.2	50.8	42.0	4.4	11.9
販売価格 (当月)	0.0	4.4	56.3	35.4	3.8	9.7



4. 客単価DI

前月水準で推移

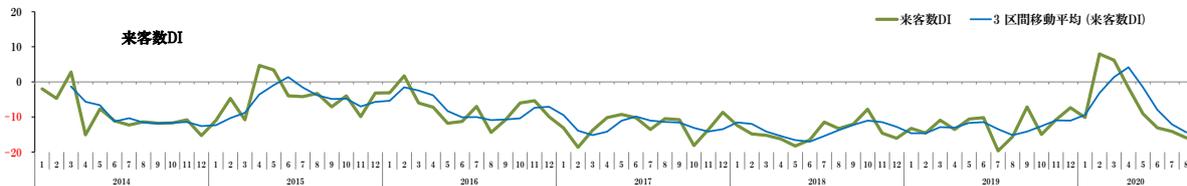
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	3.9	14.4	53.6	27.6	26.0
客単価 (当月)	0.6	6.4	12.2	51.9	28.8	25.5



5. 来客数 DI

ややマイナス幅を拡大し、来店頻度の低迷が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	15.6	44.1	22.9	15.6	1.7	-14.1
来客数 (当月)	16.5	44.3	27.8	9.5	1.9	-16.0



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅に上昇し、大幅なプラス圏で推移

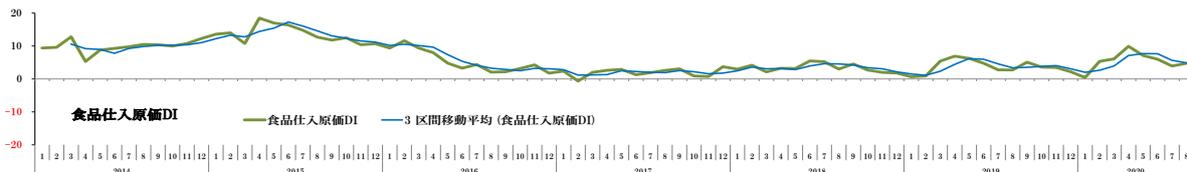
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	2.8	32.4	51.1	12.5	17.8
生鮮仕入原価 (当月)	1.3	0.7	31.1	55.0	11.9	18.9



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.8	5.6	66.9	22.5	2.2	3.9
食品仕入原価 (当月)	3.3	2.0	69.1	23.7	2.0	4.8

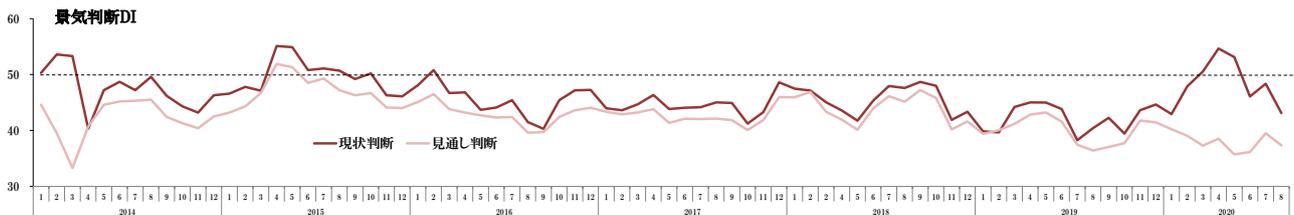


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は悪化、見通し判断も小幅に悪化

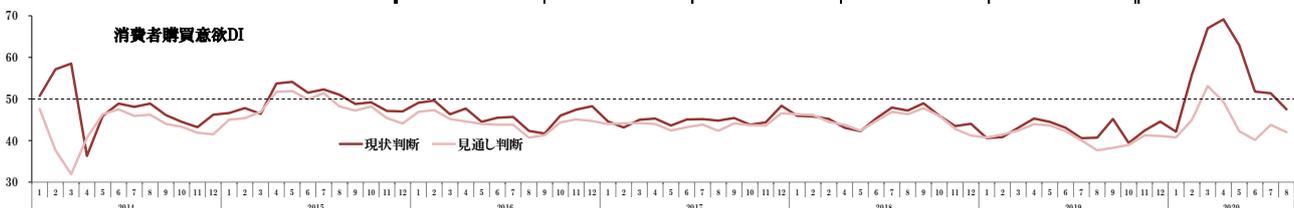
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	3.3	24.7	48.4	22.5	1.1	48.4
【現状】景況判断 (当月)	4.4	30.6	53.1	11.9	0.0	43.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	8.8	35.9	44.2	10.5	0.6	39.5
【見通し】景況判断 (当月)	6.9	43.8	42.5	6.9	0.0	37.3



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は悪化し 50 を割り込む、見通し判断も小幅に悪化

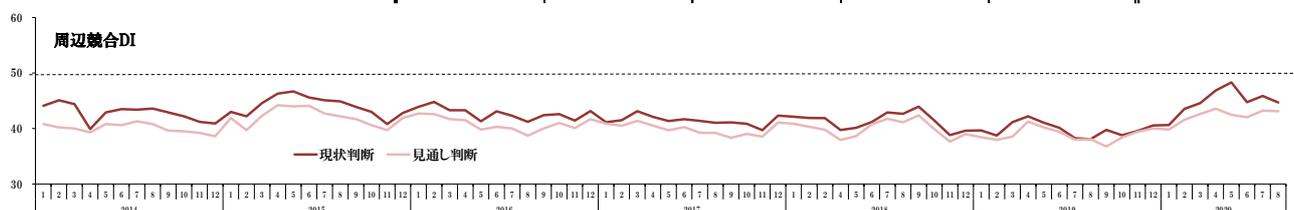
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	19.8	54.4	24.2	1.1	51.4
【現状】購買意欲 (当月)	2.5	25.6	52.5	18.1	1.3	47.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.4	29.8	53.0	11.6	1.1	43.8
【見通し】購買意欲 (当月)	5.6	33.1	50.0	10.0	1.3	42.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともほぼ前月水準で推移

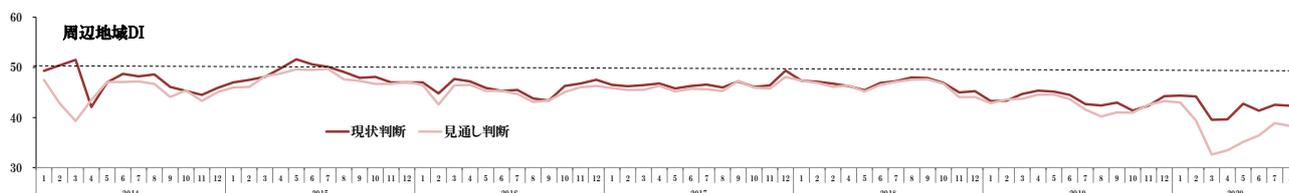
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.6	15.9	79.7	2.7	0.0	45.9
【現状】競合状況 (当月)	3.1	18.8	74.4	3.8	0.0	44.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.9	21.0	73.5	1.7	0.0	43.2
【見通し】競合状況 (当月)	4.4	20.6	73.1	1.9	0.0	43.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状、見通しともほぼ前月水準で推移

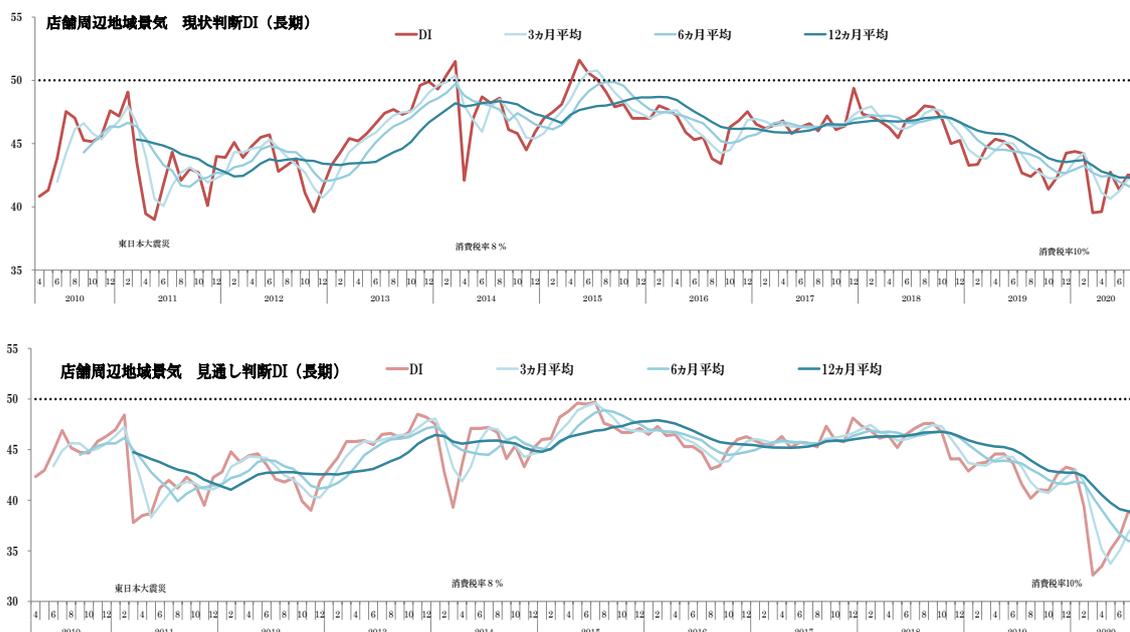
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	3.9	29.3	60.8	5.0	1.1	42.5
【現状】地域景気 (当月)	1.9	29.4	66.3	2.5	0.0	42.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	7.8	33.3	55.0	3.3	0.6	38.9
【見通し】地域景気 (当月)	5.6	36.9	56.3	1.3	0.0	38.3



・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

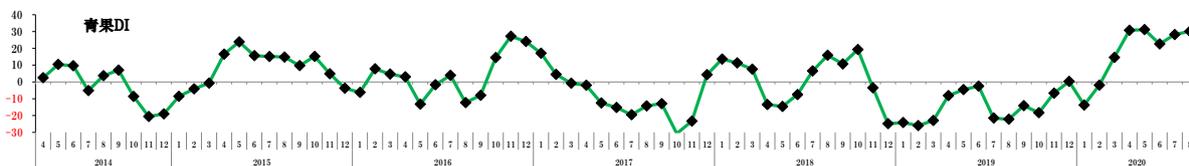
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月から大幅な低下した後、5月以降はやや持ち直しているものの、9月時点でトレンドを好転させるにはいたっていない。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：30.2（かなり好調）

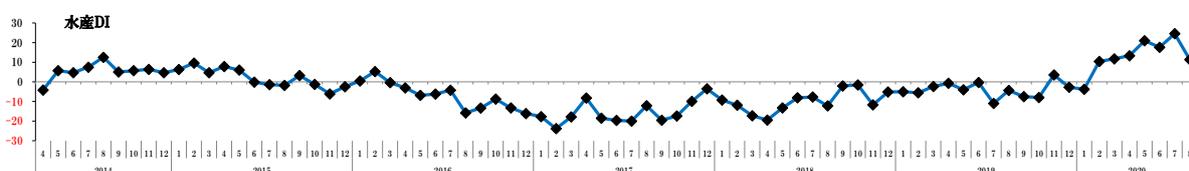
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.2	5.8	10.4	44.5	38.2	28.2
青果（当月）	1.9	3.9	12.3	35.5	46.5	30.2



長雨の影響による青果相場の高騰が継続しており、特にレタスやキャベツなどが高値となっており、一品単価の上昇によりかなり好調となっている。家庭調理需要が継続しており、引き続きじゃがいもや玉ねぎなど土物類が好調、相場高の影響でカット野菜も好調となった。気温が高くトマトやキュウリなどサラダ類も好調となった。果物類は、輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調となっている。国産果物では桃は伸び悩んだが、ブドウやスイカ、梨は好調となった店舗が多かった。

2. 水産DI：11.4（好調）

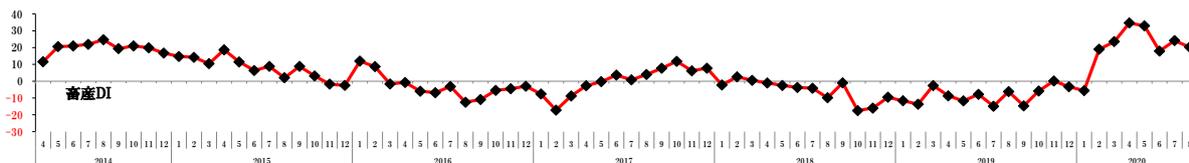
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	0.6	7.0	19.8	39.0	33.7	24.6
水産（当月）	7.1	14.9	21.4	38.3	18.2	11.4



引き続き外食自粛による内食需要は高止まりしており、相場安傾向により買上げ点数が増加しており好調となった。うなぎは相場安を追い風に二の丑を中心に国産、輸入共に販売数量増となった。さんまは不漁で大幅な不振となった。保存可能な冷凍商材や塩干類、貝類も好調とのコメントが多い。マグロやカツオの刺身類は相場安で価格訴求しやすく好調となっているが、お盆時期の帰省客減少で、大容量などが不振となった店舗もみられた。

3. 畜産DI：20.3（かなり好調）

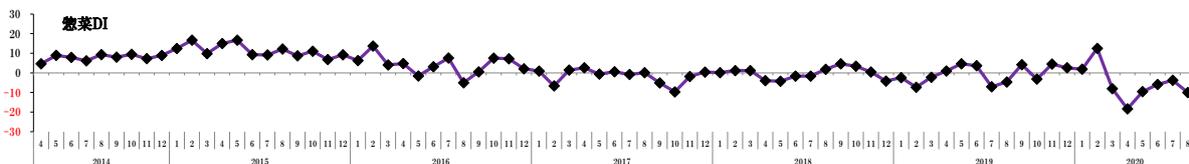
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	1.2	7.5	16.2	43.9	31.2	24.1
畜産（当月）	4.5	7.8	16.2	44.8	26.6	20.3



引き続き外食自粛や家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、全般的に好調となった。気温が高く焼肉用商材が好調となった。なかでも和牛は価格が低下しており販売数量が大きく伸びた店舗もみられたが、お盆時期の帰省客減少で大容量などが不振となった店舗もみられた。国産豚肉や鶏肉は相場高が続いているものの、挽肉をはじめ日常消費向けの商品の動きがよかった。一方で輸入肉は価格が高く伸び悩んだ店舗もみられた。ハムソーセージなど加工肉も堅調な販売動向が続いている。

4. 惣菜DI：-10.0（やや不調）

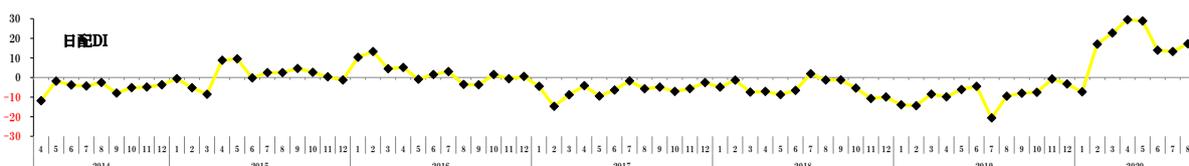
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	9.8	27.2	34.7	24.9	3.5	-3.8
惣菜（当月）	17.8	28.3	33.6	17.1	3.3	-10.0



引き続きイベント中止による大人数用、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下、ばら売り販売中止の影響を受け不振傾向が続いている。帰省自粛の影響で予約販売が低調であり、オードブルや寿司類が不振となった店舗もみられた。またランチ需要の減少を指摘するコメントも目立った。気温が高く、食卓向け涼味系惣菜、青果相場高騰の影響でサラダ関連は好調とのコメントが多い。

5. 日配DI：17.2（好調）

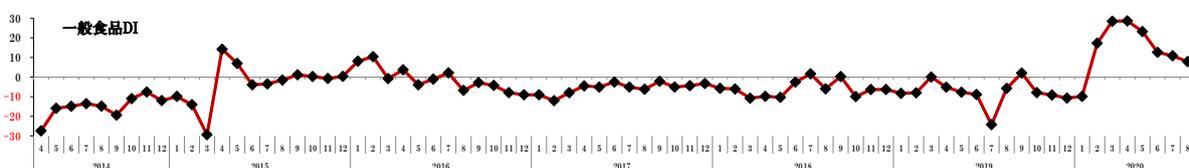
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	0.6	15.1	28.5	42.4	13.4	13.2
日配（当月）	3.9	9.1	19.5	49.4	18.2	17.2



堅調な家庭内消費需要を背景に好調な動向が継続している。高い気温により果実飲料やアイス類や、麺類など全般的に涼味系商材の動きがよかった。チルド商品、牛乳やバター、チーズなどの乳製品をはじめ、ヨーグルトや納豆、キムチなど発酵食品の好調が継続している。野菜価格の高騰で漬物類や冷凍野菜の動きがよかった。デザート類やデザート調剤商材や家飲みつまみとなる商品も好調となった。

6. 一般食品：7.9（やや好調）

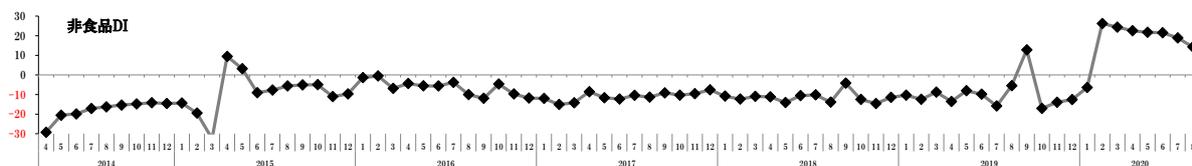
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	2.9	17.1	26.3	41.1	12.6	10.9
一般食品（当月）	7.1	16.8	24.5	40.6	11.0	7.9



高い気温により涼味商材（素麺、めんつゆ）などが特に好調となった。また堅調な家庭内消費需要を背景に、米や調味料、食油、パスタなどの乾麺、手作り用商材が引き続き好調となった。菓子は全般的に不調となった店舗が多い。飲料は気温により、アルコールは家飲み用として好調な店舗もある一方で、イベントや行楽の自粛、帰省客の減少により伸び悩んだ店舗もみられた。ギフト関連は不調となったコメントが多くなった。

7. 非食品 DI：14.3（好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	1.8	13.1	24.4	29.2	31.5	18.9
非食品（当月）	5.4	10.2	28.6	33.3	22.4	14.3



第2波への懸念が拡大したことで、マスクやハンドソープ、除菌用アルコール商品などが好調となった。高い気温により夏物商品の動きもよく、なかでも殺虫剤の動きがよかった。

調理機会の増加により、ラップや保存パックなどの調理補助品、お菓子づくり用品も好調に推移した。また、在宅時間が増えた影響で、紙類や台所、住居用洗剤の売上も好調となった。レジ袋有料化義務化により、ごみ袋が好調となった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2020年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 家庭内消費需要堅調
2. 青果相場高
3. お盆時期の動向（帰省客減少、高温）

（参考）2019年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 上旬気温上昇
2. 青果相場安（前年高騰の反動）
3. お盆時期の台風の影響による帰省客動向

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 160社
 7月実績確報版 182社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp